

講演要旨

電 子 計 算 機 の 話

山 本 純 恭

(広島大学計算センター長)

ゼロの発見、対数の発見にはじまる計算の歴史は、機械による計算の自動化へと発展し、今日電子計算機 Computer として一般に実用化されるに至った。

これを、特に言語との関係に於いて考えると、Computer による翻訳という問題がある。これは暗号の解読と類似した点がある。つまり統計的な方法によって翻訳がなされるからである。しかし Computer に用いる言語は、人工的な言語であり、そのため冗長度に欠けているので、今日完全な翻訳を Computer に行わせることは未だ不可能である。符号理論・情報理論は、この冗長度という点を目指している。

又 Computer は人間が作り出したものである以上、それ自体限界があり、人間が Computer に使われてはならず、我々は常に人間優位という立場で、その可能性というものを考慮に入れて Computer を使用しなければならない。

(文責 小脇光男)